

学校運営協議会③ 令和7年1月10日（金） 19:00～ 第二図書館

伊藤会長、矢島さん、伊藤所長、田中さん、白川さん、長田さん、校長、教頭、教務主任

<会長あいさつ>

<学校長あいさつ>

議題（敬称略）

<2学期までの学校の様子>

おやじの会感謝

たんぼ、しめ縄づくり、ケヤキフェスに向けてのクラブなど、地域の方のおかげ

<授業アンケート・学校評価アンケートより>

「自分の考えを伝えている」の二極化

「めあてをもって行動」「自分から調べる」課題

<学校評価について>

評価シート記入のお願い

<意見交換>

委員：アンケートが昨年との比較できるとよい

委員：「自分の考えを伝えている」は昨年も低かった

委員：授業参観を見ていると教えるのが難しい

委員：自分の考えを伝えるために ICT 機器を使うことも有効

委員：座学のみならず小学校も保育園のように学ぶために自ら動いて良い時代

委員：アンケートになぜ「思わない」と答えたのか記述してほしい。はずかしのか、時間がないのか、関係性なのか、伝えることがいいことと思っていないのか、課題になりそうなことについての子どもの意見を聞けたらいい。

委員：児童のアンケートに比べると学校評価アンケートの回答数が少ない。もっとたくさんの方に答えていただけるとよい

委員：運動会をもう一工夫してほしいというご意見もいただいた。リレーの復活など。

委員：アンケートは全体だけでなく学年ごとなどの傾向もほしい。

委員：学年が上がるたびに下がる項目もあれば上がる項目もある。めあてをもつ、ふりかえりができるなどは1年生のほうが高い。

委員：学年ごとの傾向は毎年同じか。

委員：だいたい同じ。

委員：例えば今年の6年が昨年の5年の時のアンケート結果と比べてどうなのか比較してみるのもよい。

委員：去年の5年生が声をかけてくれてうれしい。朝のあいさつをやっている。先生たちからもあいさつしていただけてうれしかった。子どもの成長を見られてうれしい。アンケート時に欠席していた人たちの傾向も気になる。

委員：教室余っているかと思ったがそうではない。先生は足りているのか、子どもの学ぶ場が広がったことはありがたい。

委員：「書きなさい」と言われても書けないものは書けない。それが不適應につながる。そういう子どもに寄り添っている。

委員：そういうことが当たり前になってきている。

委員：コミュニティや体育館の前に花壇がある。以前は草がぼうぼうだったが、伊藤所長さんに耕してもらった。以前にも花を作っていた時があったが、一時作らなくなり復活した。子どもが元気だと地域もうれしい。子どもが元気でいられるためには先生に元気でいてほしい。

委員：「ウェルビーイング」の本を読んだ。指定校70校とあったが。

委員：下伊那が多かった。県からの支援がなくても独自でやっていく。ケヤキフェスはまさにウェルビーイング。それをここでつくっていいなと思っている。

委員：一時、モンスターペアレンツが話題になったころ、地域が先生から警戒されたが、今は協力的になっている。中学校の先生も「地域の協力がなければ学校は成り立たない」と言っていた。

委員：来年は東中区全体として「自ら学ぶ、地域で学ぶ」がテーマ。ケヤキフェスなどを通して地域の方の力をお借りしていきたい。

委員：子どもたちもケヤキフェスのような場で地域の方に拍手をもらえるのはうれしい。

委員：職員会前のろうかに子どもたちの作品を置いて、地域の方に解放し体育館とつながただけでもうれしい。

委員：クラブ4回のうち1回行けなかった。昔は10回以上あった。クラブを増やせないか。5回とか。図工準備室を見ていると、刃が逆さについていることもある。電のこの使い方などを先生達を確認した方がいいのではないかな。運動会の協議が終わったあとの保護者への「ありがとうございました」は逆じゃないか。むしろ地域からありがとうではないか。

委員：無理強いはいしていないけど、子どもたちから出ているものかもしれない

委員：学校だより10号、角柱や円柱が見方によって違うという話を読み、1～9号まで読みたくなった。本質が見えるのはどの見方かと考えたとき、見えているように見えなところがある。ただ見るだけでなく、しゃべりかける、しゃべりかけないと友達もできない、という続きが考えられそう。目からうろこの発想だった。

委員：クラスで取り組んでいる太鼓の活動をクラス替えの後も残したい、という気持ちを始業式で全校の前で発表していた。そこまで思えるのも地域の方のおかげ。

委員：「地域で学ぶ」のは必要。「地域を学ぶ」も必要。日本が一極集中で東京に人が集まっている。地域のことを知らないからではないか。地理、風土など、地域のよさを大人が伝えていく。地域のよさを知れば、上京してもまた戻ってくると思う。

伊藤会長：「帰ってきたくなる玉川」「住み続けたくなる玉川」となるように地域からも伝え

ていけないといけない。死ぬまで地域にいる我々にできることがありそう。「地域が学ぶ」も大切。ケヤキフェスを見ると地域の大人のマナーが悪い。中学校の運動会では縦割りにして学年を超えた運動会を子どもが提案していた。コロナの時期にできなかったことも前向きにとらえて活動を考えている。

<諸連絡>

次回は3月3日（最終回）

<会長あいさつ>

子供が元気でいられるように、できることに取り組んでいきたい。